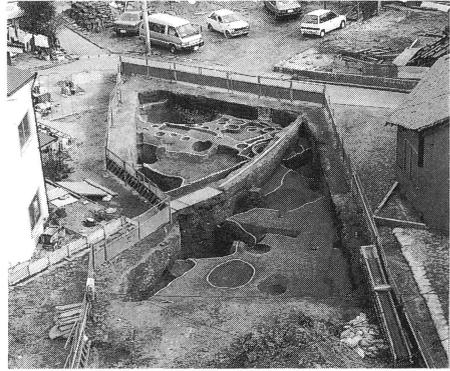


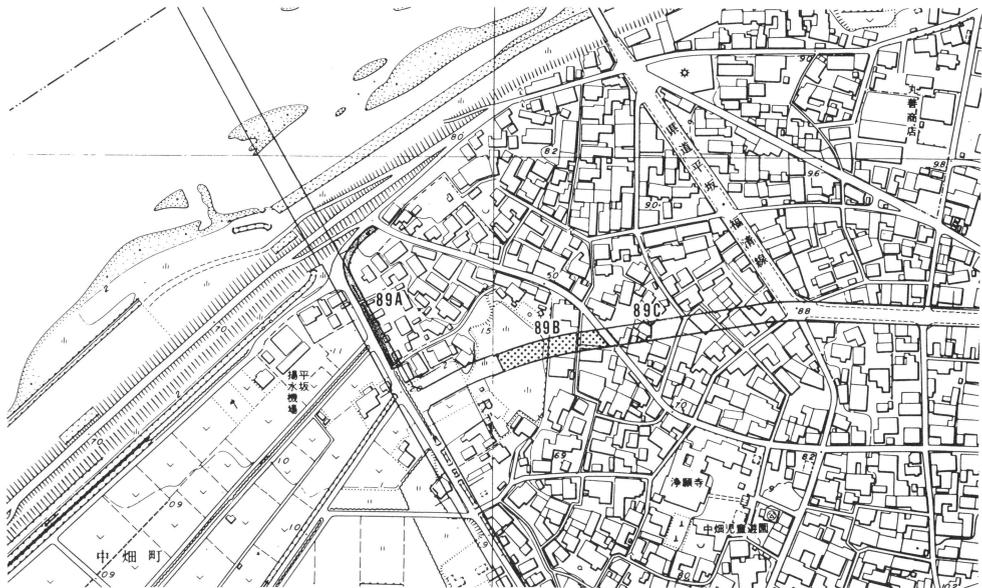
## し みず 清 水 遺 跡

清水遺跡は、三河平野南部に位置する西尾市の西縁の矢作川左岸に位置し、碧海台地縁辺が東西方向から、南北方向に変化する地点の洪積台地の縁、及び沖積地に立地する。調査区は、A～Cの3区に分れ、A区とB区の西半は沖積地、B区の東半とC区は洪積台地上にあり、各々標高約2mと約5mを測る。

A区の北西端は洪積台地にかかり、この端部で平安時代後半の溝1条を検出し、これに接する沖積層内の古墳時代の包含層より製塩土器が出土した。また、海拔約1mから0mの間の旧汀線の砂層の包含層中より、平安時代前半の製塩土器が多量に検出された。B区中央部の洪積台地に接する沖積砂層の上部より、縄文土器前期の清水ノ上式土器及び、これに伴う石器が検出された。C区では、中世末から近世初期の大形の土坑群が検出された。遺構の性格は、貝殻の廃棄土坑と土取り土坑の2種類があり、出土遺物は内耳鍋がほとんどを占める。(酒井俊彦)



C区全景 (西より)



第1図 調査区位置図 (1/5000)